

(仮称)川西市立総合医療センター基本構想 概要版

平成31年2月

1. 阪神北医療圏・川西市を取り巻く環境【基本構想 第1-1】

行政動向

平成30年4月 診療報酬改定

急性期機能を担っていた病院に対する要件の厳格化

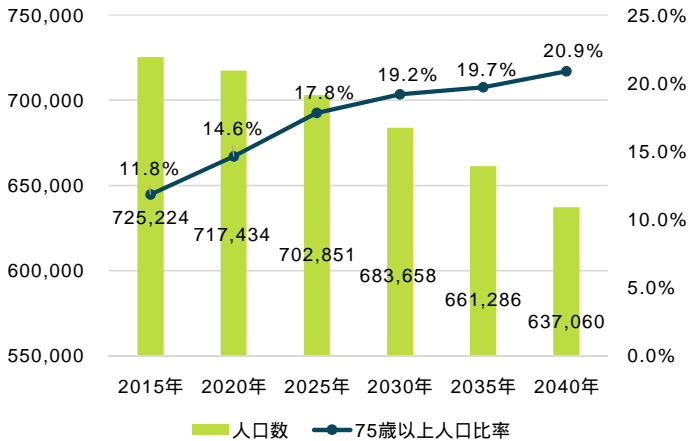
兵庫県地域医療構想

医療機能の分化・連携、在宅医療の充実、医療従事者の確保が求められている

将来人口の推計

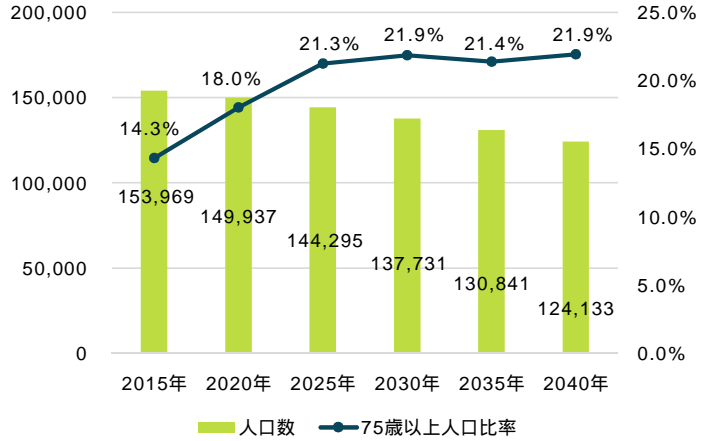
国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）より

< 阪神北医療圏 >



2015年 2040年
人口:72.5万人 63.7万人
後期高齢化率:11.8% 20.9%

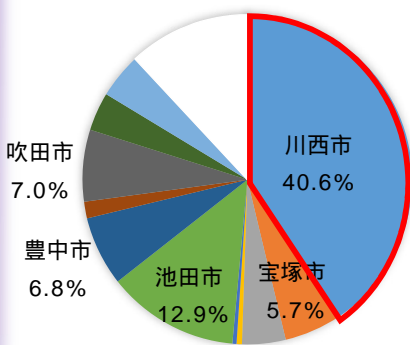
< 川西市 >



2015年 2040年
人口:15.4万人 12.4万人
後期高齢化率:14.3% 21.9%

市内完結率

市内全域 計5,596人



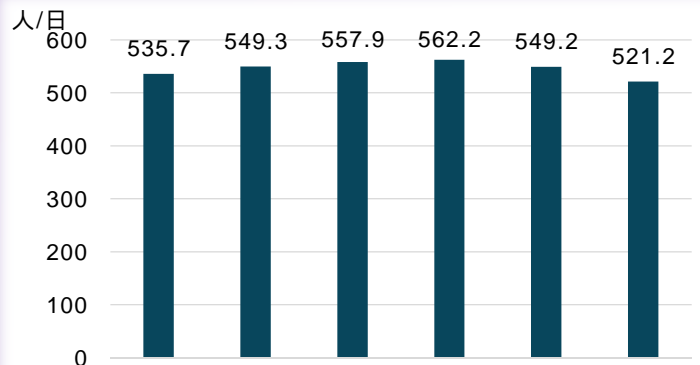
エリア	市内完結率
全域	40.6%
北部	49.3%
中部	42.0%
南部	34.0%

平成28年9月から平成29年8月までの川西市内居住患者の国保レセプトデータより入院実患者別の利用医療機関を集計（精神科受療患者は除く）

川西市全域 40.6%

（阪神北医療圏71.8%）
北部よりも南部のほうが低い

川西市における1日あたりDPC患者数（推計）



2015年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年
一定の推計方法を用いて算出した推計値のため、実際の患者数とは異なります

2030年まで増加し、その後減少。呼吸器系、循環器系、外傷系が増加、消化器系、女性生殖器系が減少

機能別病床数

平成28年度病床機能報告及び兵庫県地域医療構想より

< 阪神北医療圏 >

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
2016年報告値	233床	3,105床	820床	2,673床
2025年必要数	497床	1,890床	1,718床	2,465床
差(-)	264床	1,215床	898床	208床

急性期病床の半数近くを高度急性期・回復期へ移行する必要あり

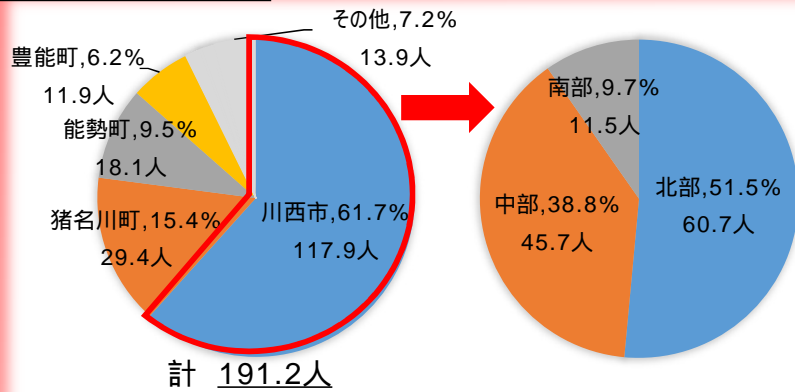
川西市内には**高度急性期を担う病院がない**

< 川西市 >

病院名	稼働病床数			
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
市立川西病院		235床		
協立病院		313床		
ペリタス病院		199床		
自衛隊阪神病院		106床		
第二協立病院		40床	151床	234床
協立温泉病院			50床	361床
九十九記念病院				82床
正愛病院		32床		38床
合計	0床	925床	201床	715床

2. 市立川西病院を取り巻く環境【第1-2】

地域別入院患者



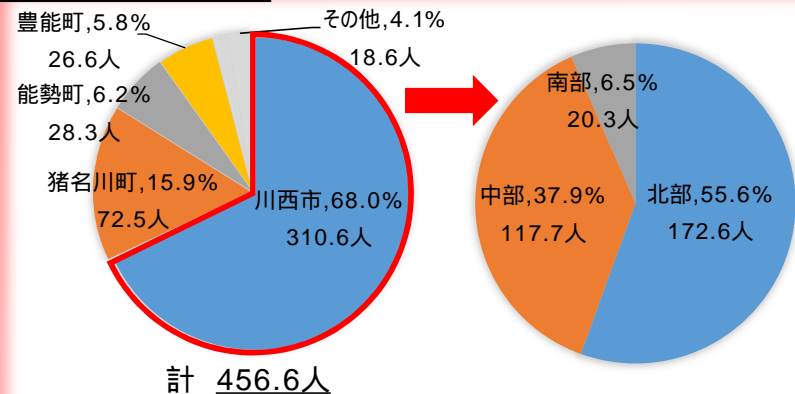
入院患者数と診療単価

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
1日あたり入院患者数	実績値 (目標値)	152.7人	173.8人 (173.0人)	191.2人 (195.0人)
平均入院診療単価	実績値 (目標値)	46,103円	46,264円 (46,411円)	45,938円 (47,500円)
病床稼働率		76.7%	75.2%	81.7%

目標値は市立川西病院経営健全化計画における目標値を示す

川西市、猪名川町、能勢町、豊能町で92.8%を占めている市南部からの患者は市内患者のうち9.7%と少ない入院患者数、診療単価ともに**目標値未達成**

地域別外来患者



外来患者数と診療単価

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
1日あたり外来患者数	実績値 (目標値)	423.2人	457.7人 (457.0人)	456.6人 (454.0人)
平均外来診療単価	実績値 (目標値)	9,696円	9,691円 (9,694円)	10,027円 (10,000円)

目標値は市立川西病院経営健全化計画における目標値を示す

川西市、猪名川町、能勢町、豊能町で95.9%を占めている市南部からの患者は市内患者のうち6.5%と少ない外来患者数、診療単価は**目標値をクリア**

経営状況

市からの補助金や長期貸付金などにより経営を支えているが、平成14年度以降、経常収支の赤字が解消できない状況が続いている直近5年間の状況は次のとおり

(単位: 百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
経常収支	493	456	402	328	116
市からの補助金	1,064	982	987	1,029	1,022
市からの長期貸付金	20	1,320		700	

経常収支 = 収益 (医業収益 + 医業外収益) - 費用 (医業費用 + 医業外費用)

施設老朽化

市立川西病院は開設以来35年が経過し、施設・設備ともに老朽化

↓
建て替えが必要

↓
地域医療構想に沿って医療機関の再編・ネットワーク化などの取り組みを行い、国から地方交付税支援を受けるなどの財政対策を講じていく必要がある

3. 新センターにおける具体的戦略【第1-3】

課題整理から考察する具体的戦略

ア 病院施設の整備

市中心部 (キセラ川西エリア内) への建設

市内完結率の向上、職員のアクセス配慮

イ 高度急性期・急性期医療の提供

重症度の高い患者を中心に受け入れ

医療機能の分化・連携

ウ 救急受入体制の強化

365日24時間体制のスタッフ配置を目指す

救急完結率の向上

エ 周辺医療機関との連携

地域医療連携室や患者支援センター (PFM) の整備

切れ目なく医療・看護・介護サービスが提供できるよう支援・調整

オ 小児・周産期領域の対応

周辺医療機関との連携、診療機能の集約

公立病院の使命として**診療体制を整備**

カ 経営の効率化

指定管理者制度の導入

2019年4月1日より医療法人協和会が指定管理者として管理運営し、**抜本的な経営改善**

4. 基本理念【第2-1】

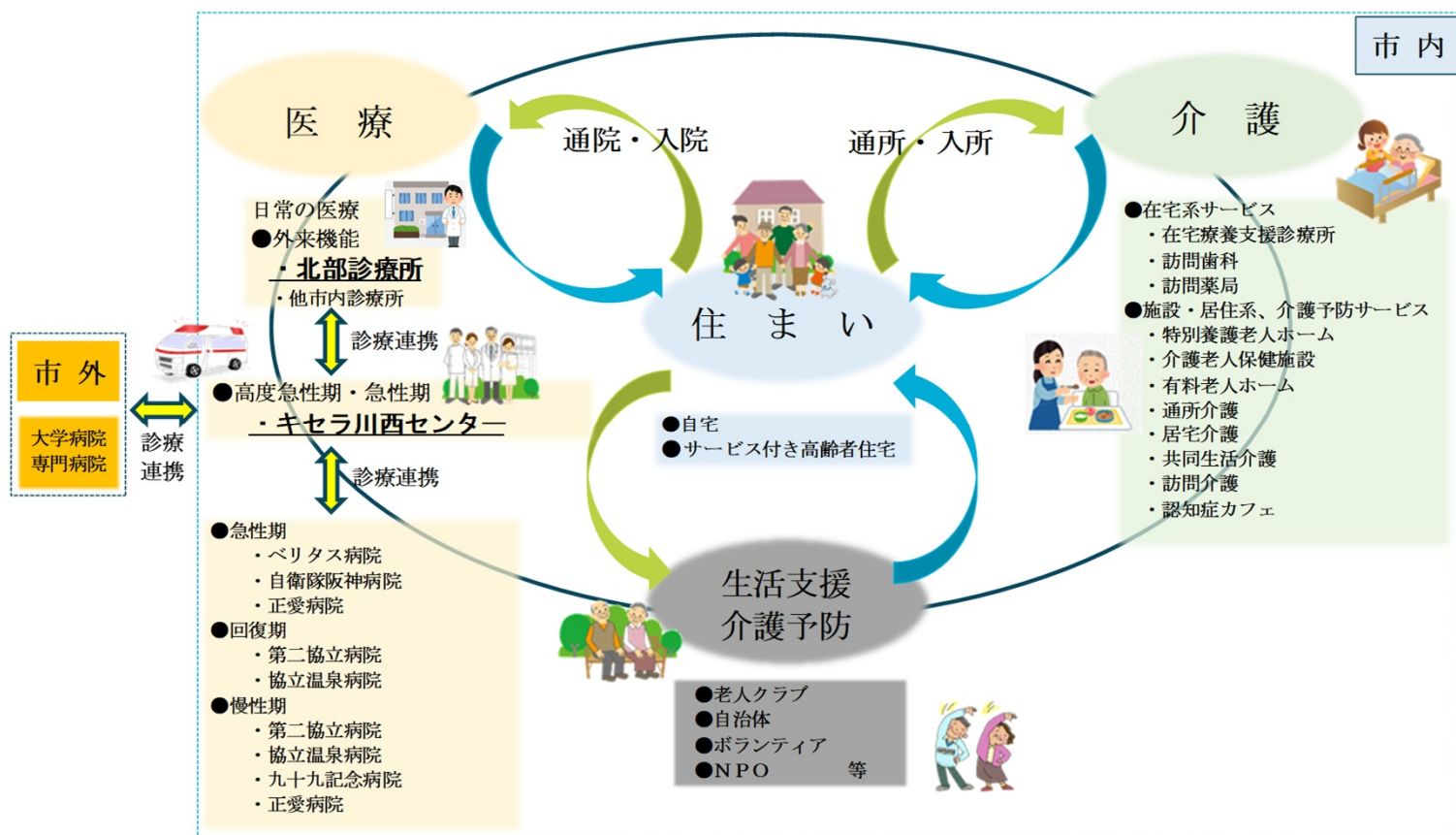
「市民が安心・信頼できる病院」

5. 基本方針【第2-2】

（仮称）川西市立総合医療センター整備の基本方針

- ア 地域の医療機関と連携し、市の基幹病院の役割として**地域包括ケアシステムの構築**を進めます
- イ **がん診療の充実**を図ります
- ウ **救急医療の充実**を図ります
- エ **小児・周産期医療を推進**します
- オ 利用環境の向上を図るため、**病室の全室個室化**に取り組みます
- カ **北部診療所を整備**し、本院との連携のもと、必要な医療を提供します

地域医療機関との連携・地域包括ケアシステムのイメージ図



6.キセラ川西センター 診療科・診療体制【第3-1】

診療科構成

内科、総合診療科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、外科、呼吸器外科、乳腺外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、形成外科、神経内科、精神科、脳神経外科、麻酔科、産婦人科、小児科、泌尿器科、緩和ケア科、放射線科、病理診断科、救急科

計 **28診療科**

センター化構想

循環器センター、消化器センター、脳卒中センター、周産期センター、乳腺センター、糖尿病・生活習慣病センター、腎センター、救急センター、オンコロジーセンター（仮称）、内視鏡センター、リハビリテーションセンター、患者支援センター

計 **12センター**

病床数

一般病棟377床 高度治療室等20床 脳卒中集中治療室 3床

計 **400床**

想定患者数

入院：約370人/日（病床稼働率93%） 外来：約900人/日

想定職員数

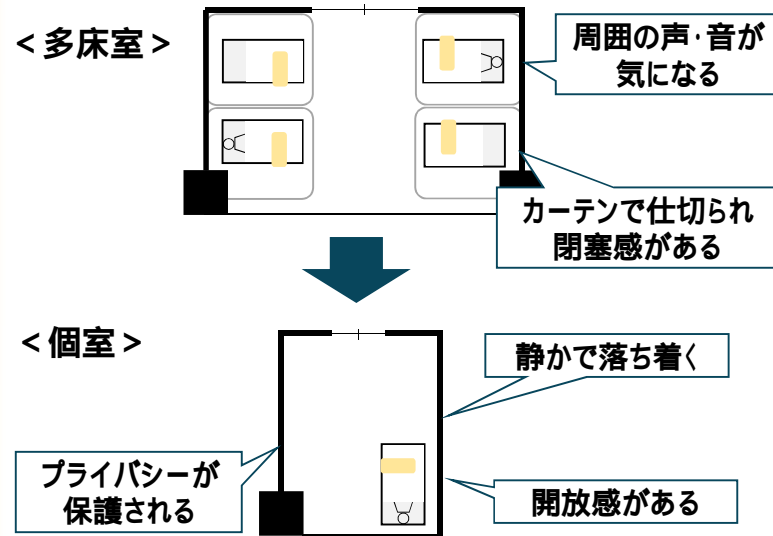
医師：80～90人、看護師：約400人、医療技術職：約100人

7.キセラ川西センターの特徴【第3-2】

快適性

病棟の全室個室化（うち有料個室3割、無料個室7割）

患者のプライバシーへの配慮、患者や家族等にとって快適で利用しやすい環境を確保するため、一般病室を個室化



施設・設備の充実

重症系病床の整備

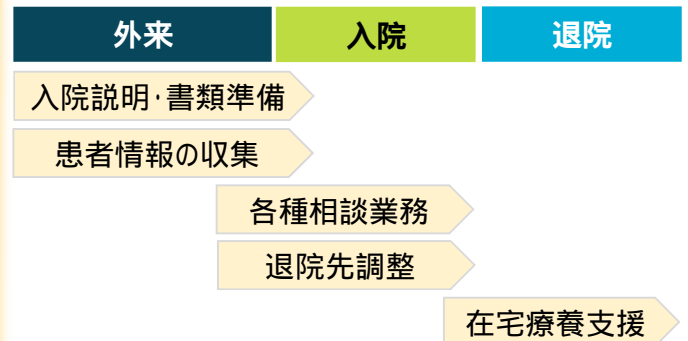
救急搬送後、手術後のなどの重症な患者を受け入れる病棟を整備



機能性

患者支援センターの整備

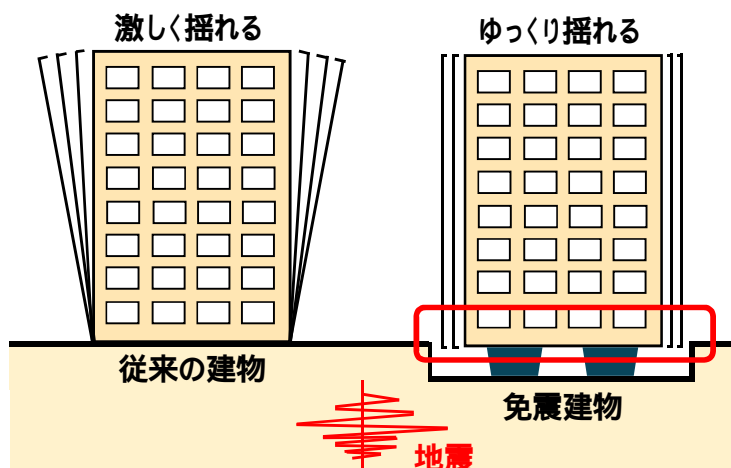
外来から入院、退院までで生じる各種支援・相談等を実施



安全性

免震装置の導入

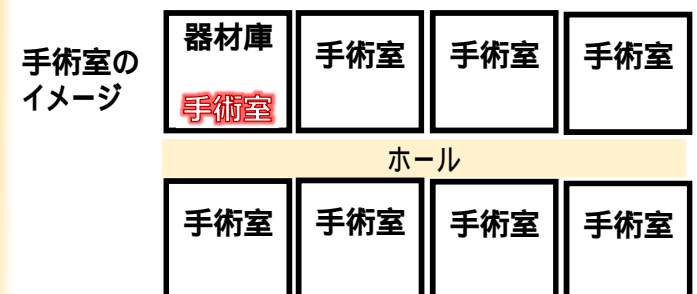
災害時にも継続して医療を提供できる体制を整えるため、地震の揺れを軽減させる免震構造を採用



経済性

将来拡張可能な設計プランの策定

医療需要の変化に対応できるよう、拡張性のある設計プランを採用



8. キセラ川西センター 建設地・整備スケジュール【第3-5、8】

建設地周辺図

整備スケジュール

キセラ川西エリア内に位置し、エリア内にある他の施設も複合的に利用しやすい立地

電車・バス・自家用車それぞれからアクセスしやすい川西市街地に建設

キセラ川西センターは早期開院を目指し、工期短縮可能な**デザインビルド方式**にて設計施工者に発注

基本設計から施工までを一括して発注する方式



2022年秋頃の開院を目標

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
基本構想・基本計画 (2018年4月～2019年3月)	12				
設計・施工者選定手続 (2019年4月～7月)		4			
基本設計・実施設計 (2019年8月～2020年10月)		15			
建築工事 (2020年11月～2022年6月)			20		
搬入・移転等準備 (2022年7月～8月)					2

9. 北部診療所について【第4-1、2、3】

診療科・診療体制

内科、整形外科、小児科、外科等その他の合計 **4診療科・6診**

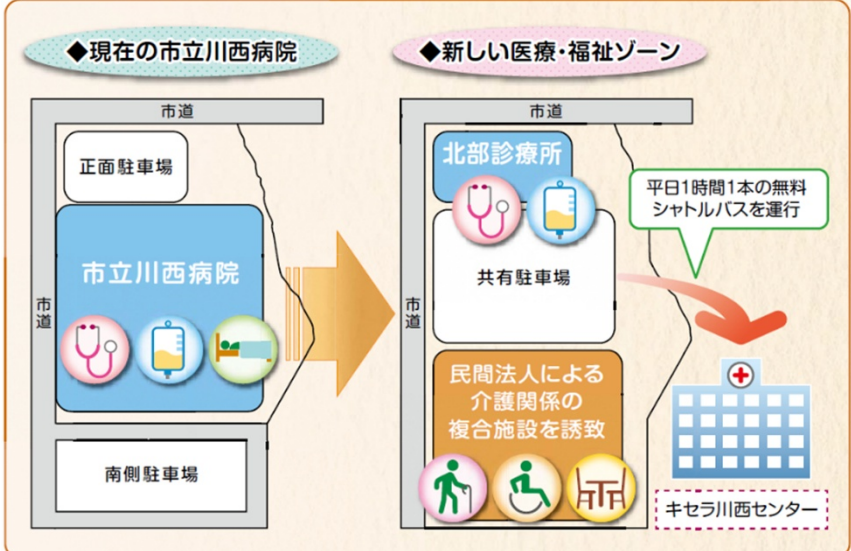
	月～金	土・日・祝日
午前	内科3診、整形外科1診、小児科1診 外科等その他1診 計6診	内科1診、整形外科1診、小児科1診 計3診
午後以降	内科1診(24時間急病対応)	

建設地

整備スケジュール

現市立川西病院敷地内正面駐車場に整備

北部診療所とキセラ川西センター間のシャトルバスを運行予定



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
基本構想・基本計画 (2018年4月～)	12			
設計者選定手続 (2020年4月～7月)			4		
基本設計・実施設計 (2020年8月～2021年4月)			9		
施工者選定手続 (2021年5月～7月)				3	
建築工事 (2021年8月～2022年6月)				11	
搬入・準備等 (2022年7月～8月)					2

病院南側駐車場・病院跡地には、民間法人による介護老人保健施設、訪問看護ステーション、通所リハビリなどを誘致予定 本構想対象外

10.事業費について【第5-1、2】

キセラ川西センター 事業費

項目	金額	備考
土地	約17.0億	
設計・監理等	約9.4億	地質調査費 開発行為許可申請費 測量費 基本・実施設計費 工事管理費
建築工事費	約167.5億	新築工事費（1㎡あたり360,000円）にその他（免震加算費、外構工事費、造成費）等を含む
システム導入費	約18.0億	
医療機器・備品費	約40.0億	
土壌汚染対策費	約14.0億	
キセラ川西センター事業費	約265.9億	

北部診療所 事業費

項目	金額	備考
土地	-	現市立川西病院跡地利用
設計・監理等	約0.3億	地質調査費 開発行為許可申請費 測量費 基本・実施設計費 工事管理費
建築工事費	約4.0億	1㎡あたり360,000円
システム導入費	約0.8億	
医療機器・備品費	約3.0億	
北部診療所事業費	約8.1億	

総事業費の増額について

平成29年5月1日に発表しました「(仮称)川西市立総合医療センター構想(案)」より、建築工事費の再積算や病院機能の質的充実、土壌汚染対策費などの追加や北部診療所の建設経費の見直しなどにより、約98億円の増額を見込んでいます。

・キセラ川西センター事業費

(単位:億円)

項目	29.5.1時点 A	基本構想 B	比較 B-A
土地	17.0	17.0	0.0
設計・監理等	7.4	9.4	2.0
建築工事費	80.0	167.5	87.5
システム導入費	12.0	18.0	6.0
医療機器・備品費	40.0	40.0	0.0
土壌汚染対策費		14.0	14.0
計(a)	156.4	265.9	109.5

・北部診療所事業費

(単位:億円)

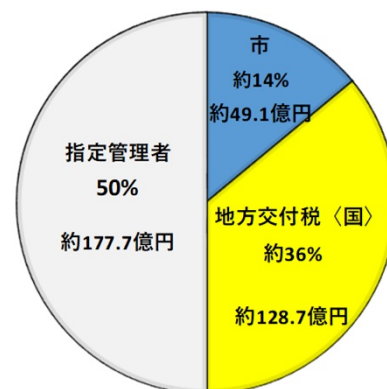
項目	29.5.1時点 A	基本構想 B	比較 B-A
土地	3.6	0.0	3.6
設計・監理	0.5	0.3	0.2
建築工事費	4.5	4.0	0.5
システム導入費	1.0	0.8	0.2
医療機器・備品費	10.0	3.0	7.0
計(b)	19.6	8.1	11.5

合計(a)+(b)	176.0	274.0	98.0
-----------	-------	-------	------

総事業費の負担割合

キセラ川西センターと北部診療所の総事業費274億円に30年間の借入利子を含めた総事業費は約355.5億円で、指定管理者が50%を負担し、国からの財政支援である地方交付税が約36%であるため、市の負担は約14%の約49.1億円（30年間の年平均償還額は約1.7億円）となります。

事業費の負担割合



総事業費 約355.5億円
(償還30年間の利子含む)

(キセラ川西センターと北部診療所の合計)